



大志



【学校教育目標】「よく学び、心豊かで、たくましい生徒の育成」

文責 河西 美代司

今日の給食です!!

あと1日 授業参観&壮行会へのお誘い

今週は月曜日から、今年度初めての「学校開放日」を行っています（本日午前中までの参観者数：1年29名、2年18名、3年11名・・・13%!!!）。昨年度は、一度も実施できなかったの、ほぼ2年ぶりの授業参観となります。ということは、1年生はもちろん、2年生の保護者のみなさんにとっても若草中学校で初めての授業参観ということになります。コロナ対策に御協力いただいた上で、ぜひ、多くの保護者の皆さまにお越しいただきたいとします。明日までです。（きっと、多くの保護者の皆様が、待ち望んでいた授業参観だと思うのですが・・・）

また、明日は、15:20~16:00の予定で、生徒会の企画・運営により、「**中巨摩総合体育大会壮行会**」を行います。コロナ対策に加え、「大きな声で、心を込めて応援したい」、「保護者の皆様にもぜひご覧いただきたい」と生徒会からの要望があり、校庭での開催となりました。暑さが心配されますが、心地よい爽やかな風が吹いてくれることを願いながら、水分もしっかりととり、勇気が湧く壮行会になることを願っています。

【授業参観は、『期間中生徒一人につき保護者1名で1回のみ』と限定させていただきましたが、壮行会はそれとは別に御参観（一家庭、保護者一名ですが）いただけますので、ぜひ、足をお運びください。駐車場は体育館・プール周辺及び給食棟跡地、受付は校庭北側の入り口を入ったところです】



←本日参観のお母さん方から許可をいただき撮影しました→

働き方改革について 御理解・御協力を・・・①

《4月平均 83.15 時間、5月平均 68.47 時間》さて、これは何の時間でしょうか？

答えは、若中の先生方の**時間外労働時間**（出勤から退勤までの時間から正規の勤務時間 [8:15~16:45] を引いた時間）です。4月は出勤の日数が21日、5月は連休があり17日でしたから、時間外勤務は約4時間となります。朝練のために1時間前に出勤。部活後に授業の用意や〇付け、会議などで3時間。というケースの先生が多いでしょうか。しかし、この数字には、休日の部活動指導や自宅に持ち帰った仕事はカウントされていないので、更に時間は増えていきます。

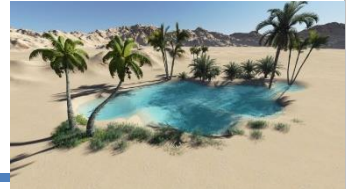


月の時間外労働時間 80 時間以上は、過労死ラインとも言われています。先生方が「より良い教育を・・・」「生徒のために・・・」と、頑

張ってくれているのは非常にありがたいことではありますが、何とかしなければならない喫緊の大きな大きな課題です。

今後、生徒の皆さん、保護者の皆さんに状況を説明し、御理解・御協力をいただきながら、生徒ためにも、先生方のためにもプラスになる働き方改革に取り組んでまいります。そこで、今回は「**学年だよりの週刊発行を原則月刊とする**」です。裏面の次週の予定は、月の予定の配布に、課題や持ち物の確認等は、「生活記録」の記入でまかなって欲しいと思います。山梨県一の中学校・中学生を目指す若中なら大丈夫ですよ。

オアシスの老人 [座右の寓話] から



二つの大きな町に挟まれたオアシスに、一人の老人が座っていた。通りかかった男が老人に尋ねた。「これから隣の町に行くのですが、この先の町はどんな町ですか?」。老人はこれに答えずに聞いた。「今までいた町は、お前にとってどんな町だった?」

「男はしかめっ面をして言う。「たちの悪い人間が多くて、汚い町ですよ。だから、隣の町に行ってみようと思ったんです」。老人はこう答えた。「お前がそう思っているなら、隣の町も、たちの悪い人間が多い、汚い町だろうよ」

しばらくすると、さっきの男が来たのと同じ町から、別の男がやってきた。その男はさっきの男と同じように老人に尋ねた。「これから隣の町に行くのですが、この先の町はどんな町ですか?」。老人はこれに答えずに聞いた。「今までいた町は、お前にとってどんな町だった?」

男はにこやかに答えた。「親切な人が多くて、きれいな町です」。老人はこれを聞いてこう言った。「なるほど、お前がそう思うなら、隣の町も親切な人が多い、きれいな町だよ」

視点や視野と似た言葉に、視座という言葉がある。視座とは「物事を見る姿勢や態度、立場」という意味である。二人の男は、現実を見る態度が違っている。現実とはさまざまな物事や人物から構成されており、その有り様をどう認識するかは人によって違う。最初の男が現実の汚いところを見ている一方、二番目の男は現実のきれいなところを見ている。あるいは、この二人の男は付き合っている友人が異なるのかも知れない。最初の男は悪い人と付き合っている。二番目の男は善い人と付き合っている。似た者同士は、自然に寄り集まって仲間をつくる。

例えば東京はどんなところかと外国人に聞かれても、東京の全体像を余すことなく答えることはできないだろう。東京は《多面体》だからだ。答えるとしても、ふだん自分が東京のどういう面を意識して生活しているかによって、その答えはまったく変わってくる。

「自分についていない」とか「私ばかり」と愚痴を言い、責任を他に転嫁することを続けていては何も変わらない。ますます悪化していくだけであろう。

友人関係においてはなおさらで、人に変わることを、改めることを求めるのではなく、自分が変わることで、見える景色も、自分を困む人たちの表情も変わってくるものである。

「過去と他人は変えられない、変えられるのは今の自分」

【生徒数配布】 カラー版は若中HPにアップしています